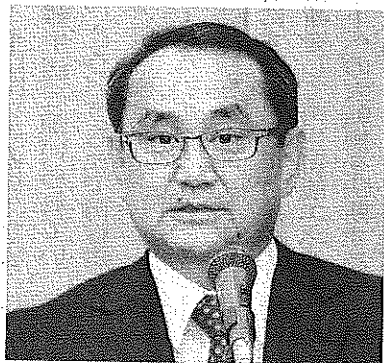


原水爆禁止世界大会・国際会議

3日、広島市内で開かれた原水爆禁止世界大会・国際会議の開会総会での主催者あいさつ、被爆者あいさつ、政府代表の発言を紹介します。



カザフスタン共和国駐日大使
カマルディノフさん



日本原水爆被害者団体
協議会事務局次長
藤森 俊希さん



日本原水協代表理事
沢田 昭二さん

核兵器の非人道性に着目

核兵器のない世界を実現するためには核兵器禁止条約のような国際的枠組みが必要であることは、核兵器国を含めて合意されています。しかし、核兵器禁止条約の交渉開始には、米、英、ロ、仏な

共同声明」はまさにそのあらわれです。ところが日本政府は共同声明への参加を拒みました。大切なことは、唯一の被爆国であり、憲法で武力行使の放棄をうたう日本が核兵器廃絶の世界の流れをリードするよう、国民世論と運動を圧倒的に強化することです。

被爆体験こそが廃絶の原点

私たちは、7月6日に亡くなった日本被団協顧問の山口仙二さんの遺志を引き継ぎ、引き続き奮闘する決意です。

私は、広島県の神田川の上で母親とともに被爆した。ことし4月、2015年NPT(核不拡散条約)再検討会議第2回準備委員会のNGOセッションで、母から受け継いだ被爆体験を話しました。アイルランド代表は、被爆体験が核兵器廃絶の原点だ、そのことを思い起こさせてもらって

感謝する、とのべました。母が子に託したのは、このことだったのかもしれないと私は胸が熱くなりました。核兵器国首脳のみならず、真に安全な地球をつくるため核兵器の全面禁止に直ちに取り組むよう訴えます。

国連のもとで「世界宣言」を

カザフスタン共和国のカマルディノフ駐日大使が、ナザルバエフ大統領のメッセージを代読しました。

参加者のみなさんに熱烈なあいさつを送るとともに、核兵器の完全禁止をめざすみなさんの努力を心から支持します。8月29日は、ソ連が初めてセミパラチンスク核実験場で核実験をして64周年です。40年間で500回の核実験が実施され、150万人以上に影響しました。

放棄しました。09年以来、セミパラチンスク核実験場を閉鎖した8月29日は国際核実験反対デーとして宣言されました。私は、国連の枠組みのなかで核兵器のない世界に段階的に進むすべての国々の誓約を盛り込んだ「核兵器のない世界宣言」を採択するよう提案しました。